

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2009年度 第2号

成功させよう!

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751
E-mail: c24402@pref.gifu.lg.jp
中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116
E-mail: c24402@pref.gifu.lg.jp



2012
ぎふ清流国体
ぎふ清流大会

— 地域ニーズに応える研究課題の紹介 —

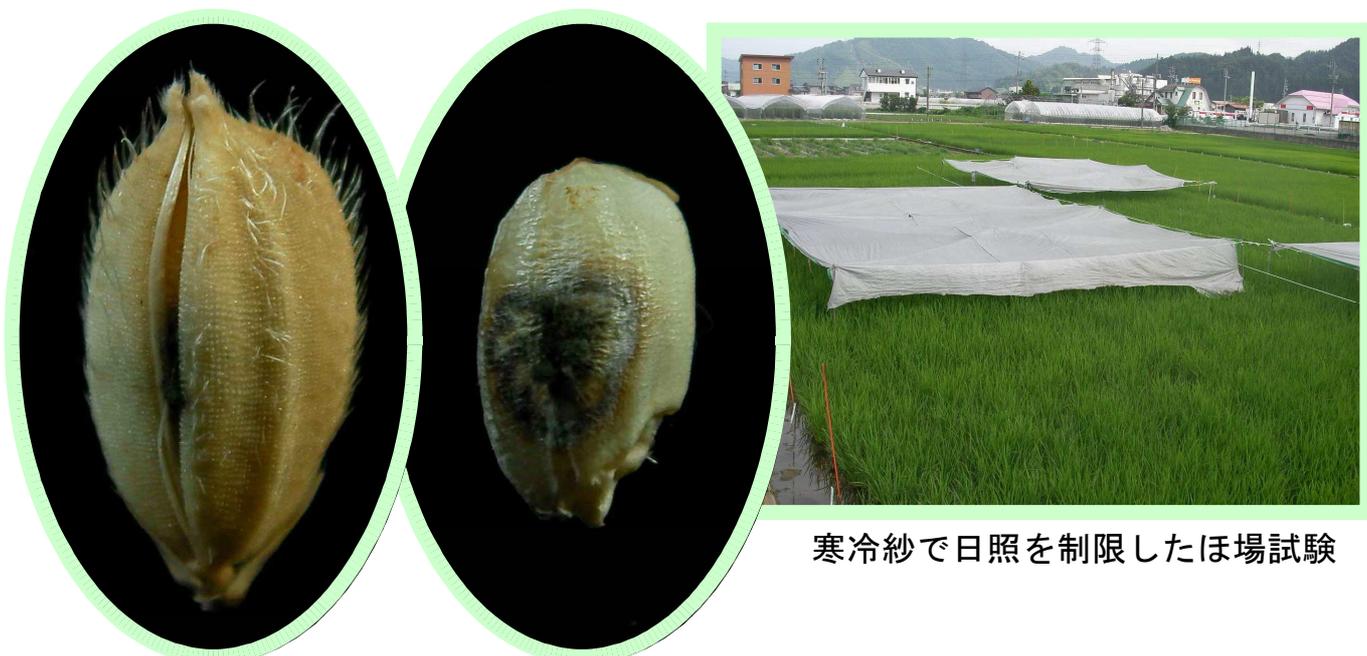
当研究所では、地域で発生している問題への対策技術や、行政ニーズに応える研究、さらに地元農業をさらに発展させるため、地域に密着した試験研究課題に取り組んでいます。今回はこれらの「地域密着課題」を紹介します。

● 水稻の「割れ^{もみ}糲」対策

近年、糲の合わせ目が不完全だったり割れ目がある「割れ糲」が、飛騨地域の水稲、特に「たかやまもち」で問題となっています。

「割れ糲」が発生すると脱穀や乾燥・調整時に糲がらが取れやすいため、種子の生産現場では、種が玄米になってしまう「脱ぷ」が多発し、生産量の不安定要因となっています。また、斑点米の原因となっているカメムシ類の加害を助長するため、対応が望まれています。

そこで、「割れ糲」の防止対策として、穂肥の時期を早めたり、緩効性の穂肥を使用した場合の効果について、飛騨地域農業改良普及センターと連携して検討しています。



寒冷紗で日照を制限したほ場試験

「割れ糲」と内部の斑点米

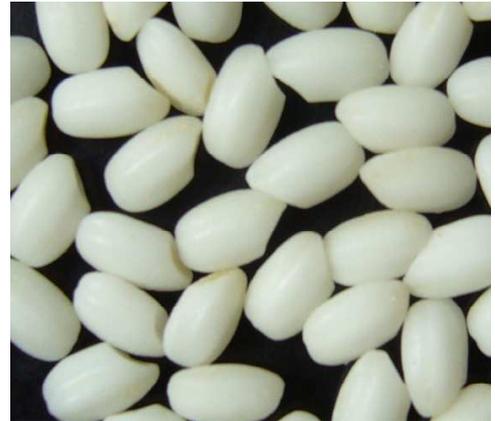
●（「きりふねもち」（東濃糯 8号）の特性把握）

中山間地向けのもち米品種として中津川支所で育成した「きねふりもち」は、2009年5月に品種登録出願公表されました。この品種の特徴は、倒伏しにくく多収で、食味と精米白度が優れています。

東濃地域では地産地消推進のため、多収で品質が良いもち米を作りたいという強い要望があり、所内および現地において試験栽培を続け、県の奨励品種に採用するかどうか検討しています。現地での調査は、JAひがしみの、農業改良普及センター他県関係機関と協力して行っています。



「きねふりもち」現地調査の様子



精米後の「きねふりもち」白米

●^{すくな}宿儺かぼちゃの改善施肥体系の実証

高山市特産野菜である「^{すくな}宿儺かぼちゃ」の施肥改良試験を行っています。

一昨年までの施肥体系の基肥の窒素肥料の内訳は、速く効くものとゆっくり効くものが概ね半々の割合で配合されていました。

しかしかぼちゃは肥料を吸う力が強く、定植してすぐに窒素肥料が効きすぎると、過繁茂や障害果の発生の原因になります。そこで初期の肥効を抑えた改善施肥体系の実証試験を行っています。



定植された^{すくな}宿儺かぼちゃ



定植一ヶ月後の様子（奥が改善区）